

## 2023年(令和5年)

## 7月例会

日時：7月15日(土)14時より  
会場：早稲田大学文学学術院での対面開催と  
オンライン開催のハイフレックス方式  
講師：千葉大学(名誉教授) 西村靖敬  
題目：ヴァレリー・ラルポーと比較文学  
司会：日本大学(元教授) 椎名正博

## 9月例会

日時：9月16日(土)14時より  
会場：早稲田大学文学学術院での対面開催と  
オンライン開催のハイフレックス方式  
講師：東京工業大学(名誉教授) 劉岸偉  
題目：林語堂は日本でどう読まれたのか  
——戦時下から戦後にかけて——  
司会：東京外国語大学 西原大輔

INSIDE THIS ISSUE

1. 7月・9月例会、ハイフレックス開催案内
2. 例会会場案内
3. 例会要旨等
4. 東京支部短信

役員連絡会開催のお知らせ

2023年9月例会終了後、ハイフレックス方式で開催します。(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、各種委員会委員長、事務局委員です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

幹事会開催のお知らせ

第1回幹事会：7月例会終了後、幹事会をハイフレックス方式で開催します(幹事会構成員は、幹事、支部長、事務局長、各種委員会委員長です)。

# 7月例会発表要旨

## ヴァレリー・ラルボーと比較文学

千葉大学（名誉教授） 西村靖敬

『A. O. バルナブース全集』(A. O. Barnabooth, Ses Œuvres complètes, 1913) などにより、20 世紀初めのフランスにおいてコスモポリティズム文学を主導したヴァレリー・ラルボー (Valery Larbaud, 1881-1957) は、その卓越した語学力と該博な知識に基づき、外国文学の翻訳や批評活動を旺盛に展開した「文学の仲介者」でもあった。ラルボーのこの方面の著作には比較文学研究に通じるところが少なからずあると考えられるが、フランスなどにおいても彼の仕事が比較文学の観点から顧みられることはほとんどなかった。だが、彼の評論において何よりも際立つのは国境や言語の壁を易々と飛び越えるグローバルな視野であって、同様のインターナショナル (トランスナショナル) な視点に立脚した研究こそは、比較文学という新しい学問が第一に標榜したものに他ならず、まさにその原点であったはずである。また、ラルボーは翻訳や翻訳者が文化の発展に多大な貢献をなしてきたことを力説するために『聖ヒエロニュムの加護のもとに』(Sous l' invocation de saint Jérôme, 1946) を著わし、この評論集に多数の翻訳論を取めたが、翻訳に関する研究が比較文学の重要な研究分野の一つであることは論を俟たない。ラルボーは比較文学に関する専門教育を受けたわけではないが、彼の論考などにジョゼフ・テキスト (Joseph Texte, 1865-1900)、フェルナン・バルダンスペルジェ (Fernand Baldensperger, 1871-1958) やポール・ヴァン・ティーゲム (Paul Van Tieghem, 1871-1948) といった、当時のフランスを代表する比較文学者たちへの言及が散見されることも注目に値する。

本発表では、以上のような点を確認した上で、彼の翻訳論や文学論などをいくつか取り上げ、ラルボーと比較文学との関わりに新たな光を当ててみたい。

# 9月例会発表要旨

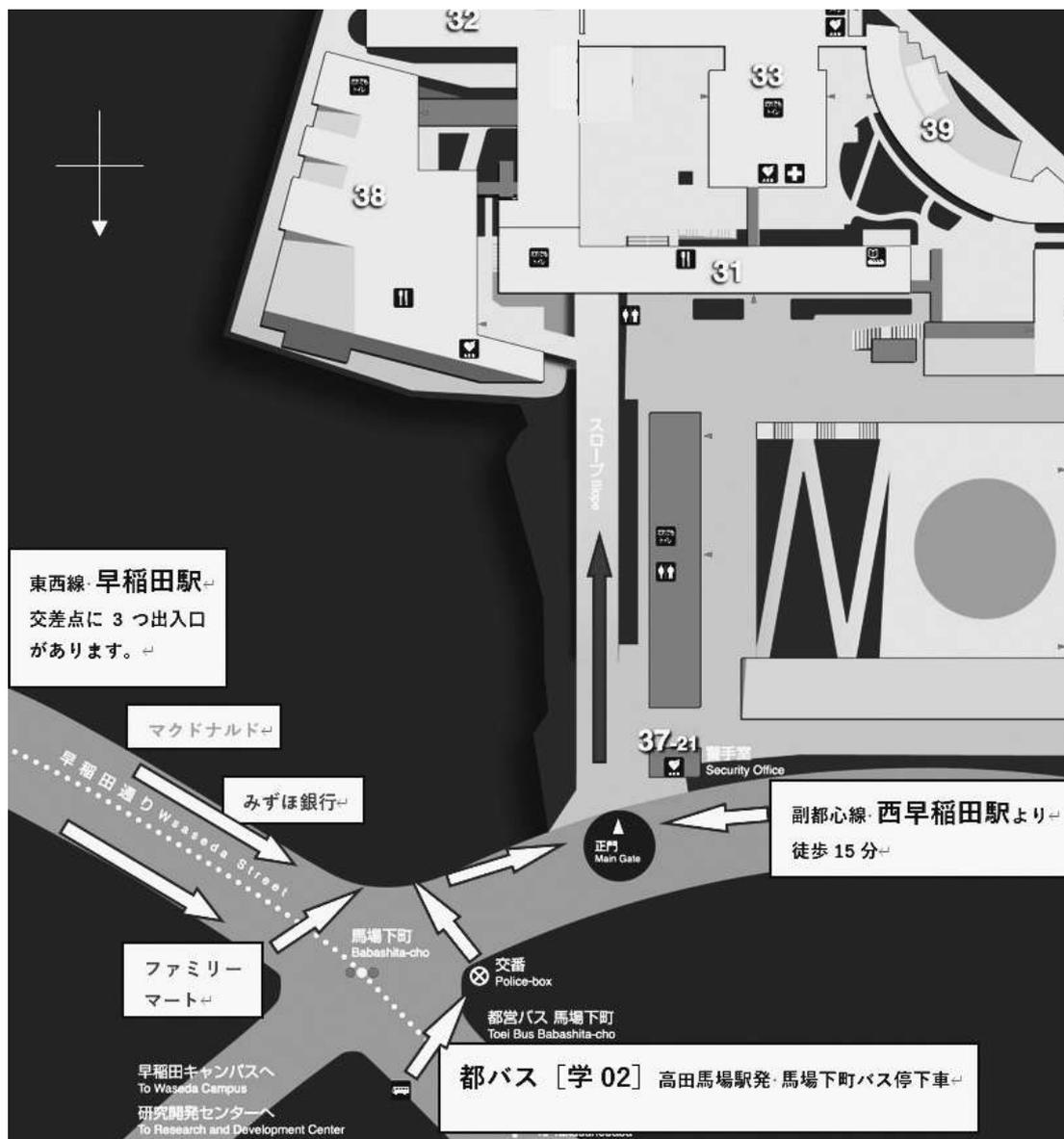
## 林語堂は日本でどう読まれたのか ——戦時下から戦後にかけて——

東京工業大学（名誉教授） 劉岸偉

中・英両国語を駆使して、多くの小説、エッセイを創作した近代中国屈指のバイリンガル作家林語堂。その著書は戦時中から、戦後にかけて日本にも多く紹介されている。その邦訳や、戦時下から終戦直後にかけて、林語堂の言説がいかに受け止められたかを論じた先行研究はすでに幾つか出ているが、この発表では、先行研究を踏まえつつ、外務省外交史料館、防衛省研究所など所蔵の一次史料をも参照し、林語堂主著の一つ *My country and my people* (13th printing)、問題作の *A history of the press and public opinion in China*, そして *With Love & Irony* に焦点を絞り、日本での反響、反応をてがかりにして作家の真意を探り、同時に邦訳者の意図も分析して、その今日的意味を考えてみたい。

# 7月・9月例会 対面開催会場案内

7月・9月例会は早稲田大学戸山キャンパス（文学学術院）で開催されます（下図参照）。部屋番号等の詳細は開催1週間前にお知らせいたします。キャンパス内については、当日の掲示にしたがってお進みください。



# 東京支部短信

## 東京支部役員について

2023年6月10日に開催された日本比較文学会の総会の開催時をもって、東京支部も新しい役員体制となりました。新役員は以下のとおりです。

支部長／源 貴志

事務局長／宗形賢二

### ◎幹事

内山加奈枝 金田由紀子 佐々木悠介 佐藤宗子 庄子ひとみ 鈴木美穂  
銭国紅 田中琢三 西原大輔 畑中健二 堀江秀史 南 明日香 和田桂子

### ◎編集委員会

委員長：椎名正博

委員：岩下弘史 亀井伸治 越野 剛 庄子ひとみ 鈴木美穂 中垣恒太郎

### ◎運営委員会

委員長：内山加奈枝

委員：草野慶子 徳盛 誠 日中鎮朗

### ◎企画委員会

委員長：佐々木悠介

委員：井上 健 菊池有希 ソーントン不破直子

### ◎倫理綱領委員会

委員長：斉藤恵子

委員：古田島洋介 平石典子

### ◎大会準備委員会 (2023年度大会まで)

委員長：衣笠正晃

委員：井上 健 内山加奈枝 加藤百合 佐藤宗子 椎名正博  
ソーントン不破直子 陳力衛 日中鎮朗 宗形賢二

### ◎事務局委員会

事務局長：宗形賢二

会計担当：土田久美子

委員：川野礼音 芳賀理彦 畑中健二 蒔田裕美

### ◎会計監査：堀 啓子 三宅晶子

各委員会委員長については、5月20日開催の幹事会において選任されました。各委員会委員については、委員長による選任となり、年度途中での追加の選任があり得ます。東京支部として新役員体制での最初の行事となる7月例会・幹事会までは、各委員会の引継ぎ期間となりますことをご了承ください。

## 当面の例会運営に関するお知らせ

- ① [7月・9月例会のハイフレックス開催について] 7月・9月の例会の会場は早稲田大学戸山キャンパス(文学学術院 別図参照)を予定していますが、ハイフレックス方式とし、Zoomミーティングでの参加も可能とします。会場の教室番号ならびにZoomミーティングのURLについては、開催1週間前にお知らせします。なお、来場については事前の申込は必要としません。
- ② 例会開催の概要は、年4回に分けてホームページに情報を掲載する予定です。3月末に4月・5月分の、6月末に7月・9月分、10月末に11月・12月分、さらに12月末には翌年1月、3月分の例会情報(日時、発表者名および題目・要旨)を掲載します。

## 月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600~800字の要旨を添えて電子メールで送信(hikaku.tokyo@gmail.com)、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

## 東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員のみなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト(<https://www.hikakutokyo.com/mm>)のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いいたします。

### 日本比較文学会東京支部ニューズレター 139号

発行人：源 貴志

編集委員会(編集担当)

委員長：椎名 正博

委員：岩下 弘史 亀井 伸治 越野 剛 庄子 ひとみ

鈴木 美穂 中垣 恒太郎

事務局

事務局長：宗形 賢二 会計担当：土田 久美子

事務局委員：川野 礼音 芳賀 理彦 畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒411-8588

静岡県三島市文教町 1-9-18

日本大学国際関係学部

三島駅北口校舎 607研究室(宗形賢二)

TEL: 055-980-1924